

# 「備北商工会地区」景気動向分析レポート 令和5年7月～9月期

## 《調査目的》

「経営発達支援計画」に基づき、管内の景気動向等についてより詳細な実態を把握するため、全国商工会連合会が行う「小規模事業景気動向調査」を継続して実施。その結果と経営指導員等の行う巡回及び窓口相談によるヒアリングを分析し、まとめたものを管内事業者に対して提供するものです。

## 《調査概要》

対象期間：令和5年7月～9月

対象事業所：備北商工会地区内の事業所

回答企業：15企業

製造業2 建設業2 小売業5 サービス業6

### 【産業全体】

業況については約5割の事業所が悪化と回答し、業況DI値も53.3ポイント減と大幅に悪化していることが分かる。エネルギーコストや物価の高騰により節約志向が高まったことで、個人消費が停滞したことが悪化の原因であると考えられる。一方で今期は雨が少なく、観光地へ出かける人も増えたことにより、一部のサービス業では業況が好転したと回答している。

### 【製造業】

売上単価は不変だが、売上額、売上数量共に減少と回答している事業所が多かった。これは個人消費が停滞した影響を受けて仕入価格の上昇分を価格転嫁できなかったことが原因だと考えられる。季節変動があるため、事業所によっては来期の売上数量と売上額が増加すると予測される。

### 【建設業】

完成工事額が増加したと回答した事業所もその他の項目について全て不変と回答している。依然として人手不足は解消できず、資材価格の高騰も続いていることから業況が回復する目処が立たない状況が続く。

### 【小売業】

売上額、利用客数、業況の項目において約8割の事業所が悪化(減少)と回答している。その原因として、生活必需品の物価高騰が続いていることや、今期は猛暑日が多く雨が少なかったことで、野菜を中心に食材価格が高騰したことによる買い控えの影響を受けていると考えられる。

### 【サービス業】

売上額について増加、不変、悪化と回答が分散していることから、人流が増えて売上額が増加した事業所と、物価高騰による個人消費の停滞の影響を受けて売上額が減少した事業所が混在していると考えられる。来期は業況が好転する事業所と悪化する事業所とに、更に両極化する傾向が予測される。

## 産業全体の業況

業況DI値(前期比) ※商工会地域のみ  
(前期) (今期)

	R5.4～6	R5.7～9	前期との比較
備北	20.0	-33.3	↓
広島県	-11.0	-16.2	↓

DIとは Diffusion Index (景気動向指数)の略。  
各調査項目について、増加(好転)企業割合から、減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示し、「変化の動向」を把握する。  
DIがプラス(+)なら………強気(楽観)、上昇機運  
DIがマイナス(-)なら………弱気(悲観)、低下機運

## 広島県の主要景況項目の推移(前年同期比)

【製造業】	製造業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目		R5.4～6	R5.7～9	前期との比較
売上額		12.2	8.0	↓
原材料仕入単価		83.0	79.2	↓
採算		-18.0	-12.0	↑
資金繰り		-6.1	-12	↓

【小売業】	小売業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目		R5.4～6	R5.7～9	前期との比較
売上額		-13.0	-22.9	↓
商品仕入単価		71.1	74.3	↑
採算		-33.8	-44.1	↓
資金繰り		-22.1	-34.8	↓

【建設業】	建設業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目		R5.4～6	R5.7～9	前期との比較
売上額(完成工事額)		-11.9	-2.4	↑
材料仕入単価		63.4	64.2	→
採算		-29.3	-26.9	↑
資金繰り		-7.3	-21.4	↓

【サービス業】	サービス業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目		R5.4～6	R5.7～9	前期との比較
売上額		20.3	5.8	↓
材料等仕入単価		71.6	68.8	↓
採算		-10.2	-23.2	↓
資金繰り		-1.5	-9.2	↓